

## (防災教育研修5) 防災ウォークラリー

### 1 ねらい

チェックポイント（CP）を記載したコマ図を利用して歩き、その間に出題される課題を解きながら、防災について学び、全CPに挑戦するゲームである。チームワークと注意力や判断力を養う。

#### ★防災ウォークラリーの特徴

- ・年齢に応じて、いつでも、どこでもできる。
- ・被災地における活動であり、臨場感や緊張感を高めて取り組むことができる。
- ・規定時間は主催者が設定し、事前に参加者には告知しない。  
※ただし、被災地における防災学習に重きを置いて、切り上げ時刻のみを設定して行うこともできる。

### 2 対象 小学5年生～

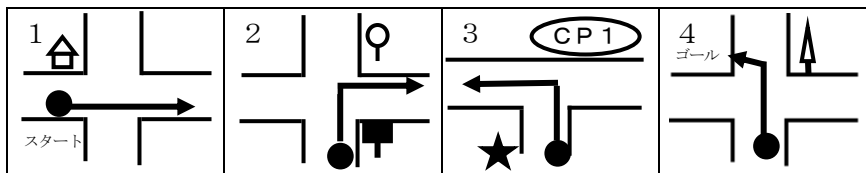
### 3 実施可能時期 通年

### 4 所要時間 小学生（150～180分）中学生（120～180分）

	内 容	所 要 時 間	場 所	指 導 者
(1)	事前指導	20分程度	オリエンテーション室	自然の家職員
(2)	出発時間（時差スタート）	20分程度	玄関	団体の引率者
(3)	実 技	60分～120分程度	コース	団体の引率者
(4)	到着確認・得点集計	10分程度	玄関	団体の引率者
(5)	結果発表	10分程度	団体で決めた場所	団体の引率者

### 5 事前指導の内容

#### (1) コース図の例



#### (2) コース図の見方

①「●印」は進行上の自分の位置であり、「←印」は進行する方向である。

②次のコース図が現れるまでは道なりに進む。

※スタート地点のコマ図1をまっすぐに進んだ後は、コマ図2と同じ四つ角が出るまでは道なりに進むということである。

③コース図のコマ図とコマ図の間の距離は一定していない。

④コース図は方位（東西南北）が一定していない。

⑤コマ図2のような場合は、必ず●印の位置に立ち、道路を横断して→印側を歩く。

#### (3) チェックポイント（上図参照）

①コマ図3の右上にある「CP1」（チェックポイント1）は課題を解決する場所である。★印のところには課題があり、設問を見て答えて解答用紙に記入する。

#### (4) ウォークラリーの課題

##### ①規定時間に関する課題

これを設定しないと競技的なおもしろさや興味を欠いてしまう。タイムレースにすると体力のある班のみが勝つことが多くなり、楽しく歩いて発見するといったウォークラリーのよさが打ち消されてしまう。これらのことから、主催者がコースの下見の際に参加者の年齢や体力、個人差などを考慮しながら規定時間を設定したほうがよい。

※ただし、被災地における防災学習に重きを置いて、切り上げ時刻のみを設定して行うこともできる。

## ②CP（チェックポイント）で出題される課題

この課題には三つの意味がある。

- (a)決められたコースをきちんと歩いたかどうかの証明となる。
- (b)競技中、参加者自身が指示されたコースを歩いているかどうかの目安となる。
- (c)メンバーがうまく協力するためのハードルとなる。

※団体でオリジナルの課題を設定しても良い。ただし、解答用紙を作成する必要がある。

## (5) 配点、採点、正解発表

①配点は問題の難易度、テーマとの兼ね合いを見て決める。

②採点は以下の(ア)～(ウ)の合計点を求めて行う。

配点 基準例	(ア)「規定時間に関する得点」 規定した時間(100点)から1分単位の誤差で1点ずつ減点する減点法 (イ)「CPにおける課題得点」各10～15点 計100点 (ウ)「特別課題得点」利用団体で設定した課題で、得点も団体で設定
-----------	--

③正解発表は表彰式で行われ、少々解説を付け加えることが望ましい。

## (6) 注意事項

①「出発準備」での指導時間が長くなると、実技の時間が短くなるので引率者は注意する。

②終了時には自然の家職員に報告し、借用物を返却する。

③引率者は、主に国道の横断箇所立つことが望ましい。

④緊急の事態が生じた場合は、速やかに所まで連絡をする。

**連絡先 0226-46-9044 志津川自然の家**

## 6 経費 無料

## 7 流れ

(1) コース下見・事前打合せの時、または、入所までの期間中。

(2) コース選定・Aコース（海→山）とBコース（山→海）がある。同一コースで周りが逆になっている。事前打合せの時に決める。

(3) 班編成・・・年齢にもよるが、1班あたり4～5名が望ましい。

(4) 準備物

①各団体・・・各班にペンと時計を用意する。賞状、賞品等は団体の考えで決める。

※オリジナル課題を設定した場合は解答用紙

②自然の家・・・ビブス、バインダー、熊よけ鈴、コース図、解答用紙

※使用後は個数や番号を確認して事務室に返却する。

(5) 引率者分担・総括担当者（指揮と連絡等）、スタート・ゴール係（出発、計時、得点等）、パトロール係（コースを巡回して安全指導）など

(6) 確認事項等・切り上げ時刻（途中でもやめて戻る時刻）を決定し、連絡を徹底する  
予想される事故や問題への対処方法、連絡方法等の指導を徹底する。

(7) 出発と集計・何分間隔で出発させるかを決めておく。

## 7 注意事項

(1) 運動しやすい服装や靴、帽子で行い、天候に応じて雨具やタオル、飲料水などを準備する。

(2) 地震の際は高台に避難する。国道の横断や海岸の崖などについて注意する。

(3) コース周辺の建物や田畑、備品、樹木等へのいたずらや無断使用を注意する。

(4) 終了時には、自然の家所員に報告し、借用物を返却する。